

第63回「ハートミーティング」意見交換の内容について 「危機管理センター（仮称）作業部会」のメンバー

★市長からのコメント

- 災害現場の第一線で、活動してくれている職員が、危機感や課題意識を持って、ボトムアップで改革してくれるのは心強い。自ら考え、課題を解決していける職員や組織でないと、災害が起こった際、真に重要になる市民力や地域力は有効に発揮されない。
- 現状を見直し、業務改善やマニュアルの作成等、良い取組を行っていている。今置かれている環境の中で考え、最大限、改善する努力なくして、新しい危機管理センターの整備がより良いものになることはない。
- 今後、最先端の機械・技術の導入も大事だが、最前線の現場でどう活かせるか、という視点を忘れず検討してほしい。
- 災害対応の後はしっかりと振り返りや検証を行い、一つ一つの経験を危機管理センターの整備に反映させ、市民の皆様の命を守る中枢を担うことをイメージし、環境整備を進めていってほしい。
- 災害時に大切なことは、家族や隣近所の助け合いである。市民の皆様に理解していただき主体的に行動していただけるような働きかけを続けてほしい。
- 危機管理は課題もあるが、大きく前進している。今後は、防災訓練や危機管理を通して、地域コミュニティの絆を深めることで、安心安全なまちづくりや、伝統ある京都のまちの継承・更なる発展にも繋がるよう、ぜひ引き続き頑張ってもらいたい。

★参加メンバーからの主な声

- ワーキンググループで積み上げた検討成果を市長に報告させていただきました。次のステップとして具体的な整備を進めていくために、市長から激励と様々なアドバイスをいただいたと理解しています。

- 市長の過去の経験の中でも、「阪神・淡路大震災」と「東日本大震災」における現地対応の経験談が非常に参考になりました。被災者のニーズを把握するためには「現場」を大切にすること、そして、新たな支援策を実現させるためには必ずやり遂げるという「熱意」が必要なことをアドバイスいただき、平成31年度に迫った危機管理センター（仮称）の完成に向けて、熱意を持って取り組むということの大切さを教えていただきました。

- 日々の業務に追われ視野が狭くなりがちですが、市長の視野の広さや考えの大きさを肌で感じる事ができたため、自分自身の業務を見つめ直す良い機会となりました。今後は、目の前の業務を着実にやりながら、その業務が本市においてどのような位置付けや役割があるのかをしっかりと認識しながら、情熱を持って仕事を進めていきたいと思えます。

- 市長との「ハートミーティング」に参加することは、職務への意識向上にもつながり、非常に良いものだと感じました。市長にお伝えしたからには、責任を持って、「危機管理センター（仮称）」の構築に取り組んでいきたいと思えます。